

## 9. 魚類

### 9-1 魚類相の特徴

岐阜市は山地から平野への移行帯にあたり、市域を北東から南西へ流れる長良川も中流域から下流域(かつての感潮域最上部)へと移り変わるため、多様な魚類の生息環境を有している。そのため、これまでに岐阜市で生息が記録された種は表 9-1 のとおり 10 目 19 科 61 種に上る。これらの種の概要、分布状況などについては表 9-2 のとおりである。なお、これらのうち、在来魚(移殖の可能性のある種を含む)は、51 種である。

### 9-2 岐阜市を代表する魚類

魚類部会の 2009～2013 年度の現地調査では、岐阜市を 1 辺の長さ約 500m のメッシュに分割した「1/2 地域メッシュ地図」をもとに、河川、水路、ため池などを含むすべてのメッシュでの網羅的調査を目標とした。その結果、岐阜市全体が 907 メッシュに分割されたうち、419 メッシュから魚類の生息記録を得ることができた。魚類の生息不可能な山地や市街地のメッシュを除けば、魚類の生息が想定されるメッシュの 7～8 割はカバーできており、目標達成はできなかったものの、市内の魚類の分布や生息状況を明らかにする上で十分な情報が得られたと考えられる。なお、過去の文献・資料には明らかな誤同定が含まれており、それらは区別して扱った。

こうした網羅的な調査の結果、200 以上のメッシュで記録が得られたのは、オイカワ(256)、カワヨシノボリ(234)、ミナミメダカ(224)の 3 種であり(括弧内の数字はそれぞれ記録メッシュ数)、これらが岐阜市民にとって最も身近な普通種だと言える。それに次ぐのが、タモロコ(190)、フナ(169)、ドジョウ(143)、カマツカ(137)、カワムツ(134)、モツゴ(130)、ニゴイ(123)である。これらの魚種は、河川の中・下流域や水田地帯に住む淡水魚であり、岐阜市の魚類相の特徴をよく表している。また、記録メッシュ数は多くないが、岐阜市北部の河川には多くの希少魚種が生息していた。

岐阜市の中央を流れる長良川の存在も特徴的であり、アユ、アマゴ(サツキマス)、アジメドジョウ、カマキリ(アユカケ)、カジカ小卵型、スズキ、ゴクラクハゼ、シマヨシノボリ、ヌマチチブといった魚種は、ほぼ長良川本流だけで採集されている。アジメドジョウ以外はすべて海と川を回遊する種であり、長良川を通じて海とのつながりを持つことも岐阜市の特徴である。

表 9-1 生息記録のある魚類(1/2)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地
ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ北方種	<i>Lethenteron</i> sp. N		○	○
		スナヤツメ南方種	<i>Lethenteron</i> sp. S		○	○
ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	○	○	○
コイ目	コイ科	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	○	○	○
		ゲンゴロウフナ	<i>Carassius cuvieri</i>	○	○	○
		フナ	<i>Carassius</i> sp.	○	○	○
		ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>	○	○	○
		アブラボテ	<i>Tanakia limbata</i>	○	○	○
		カネヒラ	<i>Acheilognathus rhombeus</i>		○	○
		イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>		○	○
		シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	○	○	○
		タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	○	○	○
		カワハタモロコ	<i>Hemigrammocypripis rasborella</i>		○	○
	ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>	○		○	

表 9-1 生息記録のある魚類(2/2)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地	
コイ目	コイ科	オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	○	○	○	
		カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>	○	○	○	
		スナムツ	<i>Candidia sieboldii</i>		○	○	
		アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>	○	○	○	
		タカハヤ	<i>Phoxinus oxycephalus jouyi</i>	○	○	○	
		ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	○	○	○	
		モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	○	○	○	
		ウシモツゴ	<i>Pseudorasbora pumila</i> subsp.			○	
		カワヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>	○	○	○	
		タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	○	○	○	
		セセラ	<i>Biwia zezera</i>	○	○	○	
		カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>	○	○	○	
		ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>	○		○	
		ニコイ	<i>Hemibarbus barbus</i>	○	○	○	
		イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	○	○	○	
		デメモロコ	<i>Squalidus japonicus japonicus</i>		○	○	
		コウライモロコ	<i>Squalidus chankaensis tsuchige</i>	○	○	○	
		ドジョウ科	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	○	○	○
			カワドジョウ	<i>Misgurnus dabryanus</i>			○
			アジメドジョウ	<i>Niwaella delicata</i>		○	○
ニシシマドジョウ	<i>Cobitis</i> sp. BIWAE type B		○	○	○		
トウカイコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii tokaiensis</i>		○	○	○		
ホケドジョウ	<i>Lefuia echigonia</i>		○	○	○		
ナマス目	キギ科	キギ	<i>Tachysurus nudiceps</i>		○	○	
	ナマス科	ナマス	<i>Silurus asotus</i>	○	○	○	
	アカサ科	アカサ	<i>Liobagrus reinii</i>	○	○	○	
サケ目	アユ科	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	○	○	○	
	サケ科	アマゴ(サツキマス)	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>	○		○	
トゲウオ目	トゲウオ科	ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2	○	○	○	
ボラ目	ボラ科	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>			○	
カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>	○	○	○	
ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	○	○	○	
スズキ目	スズキ科	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>			○	
	サンフィッシュ科	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus macrochirus</i>	○	○	○	
		オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	○	○	○	
	カシカ科	カマキリ	<i>Cottus kazika</i>			○	
		カシカ小卵型	<i>Cottus reinii</i>	○		○	
	ドンコ科	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>	○	○	○	
	ハゼ科	スマチチフ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	○	○	○	
		カワヨシノホリ	<i>Rhinogobius flumineus</i>	○	○	○	
		シマヨシノホリ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>		○	○	
		ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius giurinus</i>		○	○	
		トウカイヨシノホリ	<i>Rhinogobius</i> sp. TO		○	○	
		トウヨシノホリ	<i>Rhinogobius kurodai</i>		○	○	
		シマヒレヨシノホリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BF		○	○	
		ウキゴリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>	○	○	○	
		タイワンドジョウ科	カムルチー	<i>Channa argus</i>	○	○	○
	10目	19科	61種	42種	52種	61種	

注)表中の「文献」「資料」の欄は、13-3-1に示した「文献」「資料」に記載のあった種を示す。また「現地」については、2009～2013年度に実施した現地調査で記録された種を示す。

表 9-2 生息記録のある魚類の概要等(1/13)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>スナヤツメ北方種</b> <i>Lethenteron</i> sp. N</p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 頭甲綱 (CEPHALASPIDOMORPHI) ヤツメナギ目 (PETROMYZONTIFORMES) ヤツメナギ科 (Petromyzontidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長15cm程度。眼の後ろに丸い鰓孔が7対あるため、八つの眼があるように見えるとしてヤツメウナギと呼ばれる。鰓が無い原始的な形態の脊椎動物で、幼生期は目が無く、数年間砂泥中に潜って藻類や有機物を食べて成長する。秋に変態して目が形成された成魚は餌をとらずに越冬し、翌春産卵する。日本固有種で滋賀県以東の本州と北海道に分布する。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の平野部から中山間地の湧水のある小河川に分布する。</p> <p><b>【市内分布】</b>伊自良川水系から長良川本流の downstream、湧水河川に分布する。(記録メッシュ数5)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>スナヤツメ南方種</b> <i>Lethenteron</i> sp. S</p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 頭甲綱 (CEPHALASPIDOMORPHI) ヤツメナギ目 (PETROMYZONTIFORMES) ヤツメナギ科 (Petromyzontidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長15cm程度。形態および生活史はスナヤツメ北方種とほぼ同様。北方種と南方種の種判別にはDNA分析が有効である。日本から極東アジアに分布し、国内では東北地方以南の本州、四国、九州に分布する。</p> <p><b>【県内分布】</b>飛騨・美濃地方の中山間地から山間地の河川に分布する。</p> <p><b>【市内分布】</b>伊自良川水系および長良川本流に分布する。(記録メッシュ数4)</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p><b>ニホンウナギ</b> <i>Anguilla japonica</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) ウナギ目 (ANGUILLIFORMES) ウナギ科 (Anguillidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧ⅠB類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長60cm程度。成魚は降海してグアム島近辺まで移動して産卵する。生まれた卵・仔魚は黒潮に乗って日本沿岸に到達して河川に遡上、数年間かけて成長する。河川生活初期の幼魚は汽水域で成長し、その後、上流に遡上する個体と沿岸で過ごす個体が現れる。天然遡上以外に、河口域で遡上を始めた「シラスウナギ」を捕獲して育てた個体が漁業用に放流されている。</p> <p><b>【県内分布】</b>県内河川およびため池などに分布する。</p> <p><b>【市内分布】</b>市内に広く分布するが、個体数は多くない。(記録メッシュ数18)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>コイ</b> <i>Cyprinus carpio</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長70cm程度。フナよりも鱗の縁取りが濃く、口ひげがある。大型の淡水魚であり、雑食性で底生生物を捕食し、水の濁度を上げることで河川やため池の在来生態系に大きな負の影響を与える。現在、河川や湖沼で見られるコイは、ほぼ全て大陸原産の養殖コイに由来し、日本在来のコイは放流された養殖コイとの交雑種以外、ほとんど残っていない。「河川美化」の名目で放流されるコイは、実際は河川や湖沼の環境を悪化させる。</p> <p><b>【県内分布】</b>放流された養殖コイが飛騨・美濃地方に広く分布する。</p> <p><b>【市内分布】</b>多くの河川およびため池(錦鯉も含む)。(記録メッシュ数92)</p>		 <p>撮影: 鈴木彰</p>
<p><b>ゲンゴロウブナ</b> <i>Carassius cuvieri</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長40cm程度。琵琶湖原産のフナ類であり、釣りを目的として全国に放流されている。植物プランクトン食で、眼の位置がほかのフナ類よりも低い位置にあるように見える。体高が高く、鰓耙数は100前後。</p> <p><b>【県内分布】</b>各地のため池、ダム湖、平野部の河川。</p> <p><b>【市内分布】</b>市街地の河川およびため池。ただし、本調査結果は、形態的にゲンゴロウブナとして明らかに判定できるもののみ。(記録メッシュ数22)</p>		 <p>撮影: 鈴木彰</p>

表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (2/13)

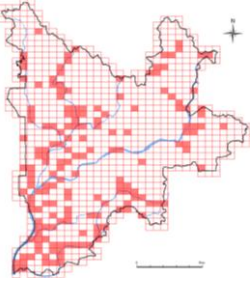

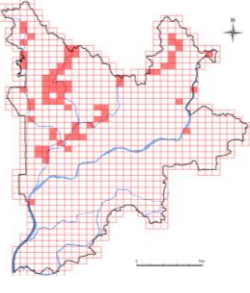

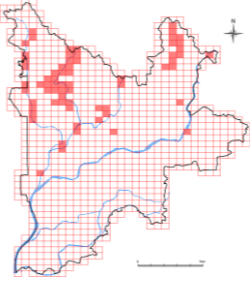

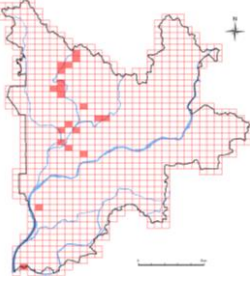

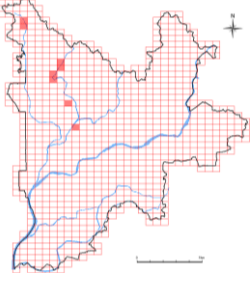

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>フナ</b> <i>Carassius</i> sp.</p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長30cm程度。日本のフナ属魚類は、形態的に特異なゲンゴロウフナ、雌性発生をする3倍体のギンブナ、有性生殖をする2倍体のオオキンブナ、ナガブナ、ニゴロブナ、キンブナとして分類されることが一般的である。しかし、ゲンゴロウフナと沖縄在来種とのフナ属以外は遺伝的にも形態的にも判別が困難であるとされる。本調査では倍数性と形態の判別ができなかったため、ギンブナ等を全てまとめて「フナ」とした。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方平野部。 <b>【市内分布】</b>主に水田地帯を中心とした河川、ため池。本調査の「フナ」には、ゲンゴロウフナの幼魚も含まれている可能性がある。(記録メッシュ数169)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ヤリタナゴ</b> <i>Tanakia lanceolata</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長8cm程度。やや細長い体形のタナゴ類で、側線は完全。口ひげは明瞭。繁殖期は春。非繁殖期の体色は銀色だが、繁殖期の雄の婚姻色は背と腹が黒く、腹部は緑色を帯び、臀鰭が鮮やかな赤に色づく。マツカサガイに産卵するとされる。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の河川や水路。 <b>【市内分布】</b>市域北部の支流に比較的広く分布する。(記録メッシュ数73)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>アブラボテ</b> <i>Tanakia limbata</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長5cm程度。ヤリタナゴに近縁だが、やや体高が高い。側線は完全で口ひげは明瞭。繁殖期は春。幼魚の体色は銀色だが、鰭がやや褐色を帯びる。繁殖期の雄の婚姻色は黄褐色で臀鰭は黒く染まる。ヤリタナゴよりも上流側、もしくは小規模な水路に多い。タガイやインガイに産卵するとされる。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の河川や水路。 <b>【市内分布】</b>市域北部の支流に分布する。(記録メッシュ数66)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>カネヒラ</b> <i>Acheilognathus rhombeus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長12cm程度。口ひげは短く、体高が高い大型のタナゴ類。繁殖期は秋で、夏の終わりごろから雄の背部は青緑色に、腹部は桃色の婚姻色が現れる。岐阜県には1970年代以降に出現しており移殖によるものと考えられる。確実な自然分布は琵琶湖水系以西。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の平野部。 <b>【市内分布】</b>主に市域北中部から南部の平野部の河川に分布する。(記録メッシュ数20)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>イチモンジタナゴ</b> <i>Acheilognathus cyanostigma</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I A類 岐阜県RL: 絶滅危惧 I類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長8cm程度。口ひげは短く、タナゴ類の中では細身の体形。肩部から尾柄部までつながる明瞭な青緑色の縦帯がある。繁殖期の雄は腹部や臀鰭が桃色になる。湖沼や流れの緩やかな河川に生息するとされる。濃尾平野から近畿地方に自然分布し、琵琶湖では、かつて大量に生息していたものがほぼ絶滅し、周辺のため池などにわずかに残るのみである。その一方で、琵琶湖からの移入個体群が濃尾平野や九州などに定着している。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の長良川水系および木曾川水系のダム湖、わんど。 <b>【市内分布】</b>伊自良川水系などで確認されている。(記録メッシュ数8)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>



表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (3/13)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>シロヒレタビラ</b> <i>Acheilognathus tabira tabira</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I B類 岐阜県RL: 絶滅危惧 I 類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長8cm程度。口ひげは短く、体高はやや高い。肩部に暗青色の斑点がある。繁殖期は春で、雄の婚姻色は主に青緑色で腹部が黒く、臀鰭外縁が白くなる。水田周辺の水路や、河川下流域、わんどなどに生息する。濃尾平野から山陽地方に分布するが、木曽川水系のダム湖の個体群は琵琶湖からの移殖由来で、岐阜市内の個体群も琵琶湖水系からの移入による攪乱が生じている。 <b>【県内分布】</b>木曽川水系のダム湖、木曽三川の下流周辺。 <b>【市内分布】</b>一部地域のごく小規模な河川・水路にのみ生息する。(記録メッシュ数6)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>タイリクバラタナゴ</b> <i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p><b>【種概要】</b>全長5cm程度。口ひげは無く体高が高い。中国大陸原産で、明治期以降に食用魚の種苗に混入してきたと考えられている。現在は日本全国に広がっている。岐阜地域で「せんばら」と呼ばれるのは本種が多い。1950年代にはすでに多数生息するようになっており、60～70歳代の方の子供時代ですでに定着していたため、在来種だと誤解されていることがある。環境省の要注意外来生物に指定されている。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の河川、水路、ため池。 <b>【市内分布】</b>流れの緩やかな河川や水路に広く分布する。(記録メッシュ数98)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>カワバタモロコ</b> <i>Hemigrammocypripis rasborella</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I B類 岐阜県RL: 絶滅危惧 I 類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長4cm程度。小型のコイ科魚類で、繁殖期の雄は金色を帯びた婚姻色を表す。繁殖期は初夏で、抽水植物などの茂った水路で産卵する。自然分布は静岡県以西で、全国的に生息地が減少しているために保護活動が行われている場所もある。岐阜県では輪之内町が条例で保護している。 <b>【県内分布】</b>美濃地方中山間地から平野部の河川、ため池。 <b>【市内分布】</b>市内では北西部と南東部でわずかに採集されたのみ。市中央部の採集事例は人為的な放流と考えられる。(記録メッシュ数3)</p>		 <p>撮影: 寺町茂</p>
<p><b>ハス</b> <i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長30cm程度。琵琶湖原産の肉食性コイ科魚類で、岐阜県には琵琶湖産アユの放流に混じって侵入したと考えられる。全国の河川やダム湖に侵入定着しており、肉食性であることから在来生態系への影響が危惧されている。長良川本流に定着しているが、現在はそれほど個体数は多くない。 <b>【県内分布】</b>木曽三川の中下流域、飛騨地方を含む山間のダム湖。 <b>【市内分布】</b>長良川本流で採集例がある。(記録メッシュ数2)</p>		 <p>撮影: 山内貴司</p>
<p><b>オイカワ</b> <i>Opsariichthys platypus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長15cm程度。中型のコイ科魚類で、全国の河川で最も普通に見られる魚種の一つ。通常は銀色の体色だが、春から夏の繁殖期には、雄が鮮やかな婚姻色を表す。河川中・下流域、支流、水路、池沼などに広く見られる。藻類や水生昆虫を食べる雑食性で、透明度の高い小規模な河川では産卵行動なども観察しやすい。岐阜県ではシラハエと呼ばれることが多く、佃煮の「いかたばえ」に使われる。 <b>【県内分布】</b>美濃地方中山間地から平野部の河川、水路、ため池。 <b>【市内分布】</b>市内では河川や水路で広く見られる。(記録メッシュ数256)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>

表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (4/13)

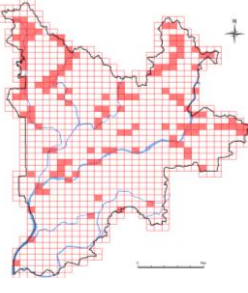

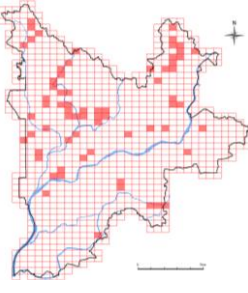



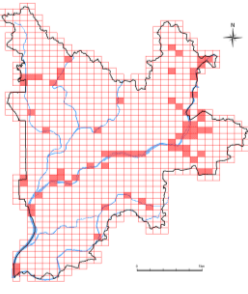

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>カワムツ</b> <i>Candidia temminckii</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長15cm程度。ヌマムツよりも側線鱗数が少なく(51枚以下)、胸鰭と腹鰭の前縁が黄色(もしくは幼魚では無色)を帯び、やや目が大きく顔つきが丸い。1980年代後半から2000年代初頭に「カワムツB」の名称で呼ばれていたが、2003年に本種をカワムツとして、「カワムツA」がヌマムツとして分けられた。山地から中山間地の河川に多く見られるが、長良川では下流域近くまで見られる。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の山地から平野部の河川。 <b>【市内分布】</b>市域北部から西部の河川に多い。(記録メッシュ数134)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ヌマムツ</b> <i>Candidia sieboldii</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長15cm程度。カワムツに類似するが、側線鱗数が多く(53枚以上)、胸鰭と腹鰭の前縁が朱色を帯び、やや目が小さく顔つきが尖っている。1980年代後半から「カワムツA」の名称で呼ばれていたが、2003年にヌマムツとして分けられた。中山間地から平野部の流れの緩やかな水路に多く見られる。 <b>【県内分布】</b>美濃地方平野部。 <b>【市内分布】</b>市域北部から西部の河川に多い。(記録メッシュ数68)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>アブラハヤ</b> <i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。口ひげは無い。鱗が細かく、全体が黒っぽい体色で、ぬめりのある外観をしているため、「油」にちなんだ和名や地方名で呼ばれる。体側に明瞭な黒色縦条がある。国内では東北地方から岡山県に分布。河川上・中流域や、平野部では湧水の流れる水温の低い環境に主に生息する。 <b>【県内分布】</b>河川の上・中流域に広く分布する。 <b>【市内分布】</b>市域北寄りに多く生息するが、南部地域にも分布する。(記録メッシュ数113)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>タカハヤ</b> <i>Phoxinus oxycephalus juyi</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。アブラハヤとほぼ同様な形態だが、体側の縦条が不明瞭で全体に小黒点が散在する個体が多い。尾柄はアブラハヤより太く、ずんどうな体形をしている。国内では静岡県・福井県以西に分布。河川上流域や丘陵地の細流に生息する。 <b>【県内分布】</b>山地や中山間地の河川に広く分布する。 <b>【市内分布】</b>市域北部に分布する。(記録メッシュ数53)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ウグイ</b> <i>Tribolodon hakonensis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長20cm程度。鱗は比較的細かい。口ひげは無い。繁殖期は春。非繁殖期の体色は銀色で、繁殖期の婚姻色は雄・雌とも黒色と赤色の縦条が現れる。北海道から九州まで広く分布し、河川で一生過ごす個体と降海する個体がいる。降海個体は大型化する。長良川河口堰運用以前は、長良川に大型の降海個体が豊産したといわれる。 <b>【県内分布】</b>飛騨・美濃地方の河川やダム湖。 <b>【市内分布】</b>長良川本流および支流に分布する。(記録メッシュ数70)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>

表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (5/13)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>モツゴ</b> <i>Pseudorasbora parva</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。口が小さく上を向く。口ひげは無い。側線は完全。国内での自然分布域は関東地方から九州までとされるが、現在では移殖により北海道から沖縄まで分布する。人為的移殖はコイやヘラブナ(ゲンゴロウブナの養殖品種)への混入によるものと考えられる。止水域に生息し、「もろこ」の佃煮の材料として使われる。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の河川、水路、ため池。 <b>【市内分布】</b>河川や水路に広く分布する。(記録メッシュ数130)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ウシモツゴ</b> <i>Pseudorasbora pumila</i> subsp.</p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>岐阜県条例: 指定希少野生生物 環境省RL: 絶滅危惧ⅠA類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長8cm程度。口が小さく上を向き、口ひげは無い。側線は不完全で胸鰭上方までしか達しない。岐阜県、愛知県、三重県の東海3県固有で、平野部の水路からは絶滅し、現在では中山間地のため池にのみ生息する。近年の移殖放流を除くと野生生息地は10地点以下しか残されており、水草や枯葉等の堆積によるため池の環境変化、外来魚の侵入などによる絶滅の危機にさらされている。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方のため池3カ所のみ。(保護用の放流池、ピオトープ等は除く) <b>【市内分布】</b>私邸の庭池に1カ所のみ。近隣に生息していた個体を捕獲したものが生き残ったと考えられる。(記録メッシュ数1)</p>		<p>no photo</p>
<p><b>カワヒガイ</b> <i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長12cm程度。若魚は体側に明瞭な黒色縦条があるが、成長すると不明瞭になる。成熟した雄の婚姻色は頬部が桜色、背側が青く、体側が黄緑色を帯び、県内では地方名「さくらばえ」とも呼ばれる。成熟した雌は1~2cmの産卵管が伸びており、二枚貝の中に産卵する。国内では濃尾平野~九州に分布するが、濃尾平野の在来個体群は他地域とは遺伝的に大きく異なる。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の河川中流域、支流。 <b>【市内分布】</b>長良川および比較的規模の大きな支流に分布する。(記録メッシュ数46)</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p><b>タモロコ</b> <i>Gnathopogon elongatus elongatus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。口ひげがあり、体側に暗色の縦帯がある。河川下流域や支流、水路、湖沼に生息し、プランクトンや小動物、藻類などを食べる雑食性。自然分布域は東海地方以西と考えられるが、滋賀県以西の個体群と岐阜県東部の個体群は遺伝的に大きく分化している。地味な魚だが食味は良いとされる。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方平野部。 <b>【市内分布】</b>河川や水路に広く分布する。(記録メッシュ数190)</p>		 <p>撮影: 鈴木彰</p>
<p><b>ゼゼラ</b> <i>Biwia zezera</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長7cm程度。カマツカヤツチフキに似た底生の小型コイ科魚類だが、口ひげが無く、頭部が小さい。繁殖期は春~初夏で、雄は黒色の婚姻色を表し、胸鰭前縁に追星が発達して川岸のヨシの根元などに縄張りを形成する。川底の有機物などを食べるとされている。自然分布は濃尾平野~九州北部。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の河川。 <b>【市内分布】</b>長良川の主流および支流に広く分布するが、春から夏は支流に多く、秋に本流に下るようである。(記録メッシュ数84)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>



表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (6/13)

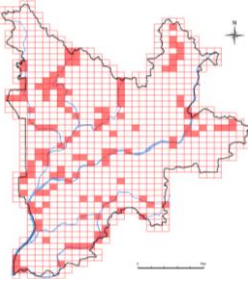

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>カマツカ</b> <i>Pseudogobio esocinus esocinus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長15cm程度。やや顔が長く口は下向きで短いひげがある底生のコイ科魚類。国内では東北地方～九州に分布。砂底から砂泥底に棲む普通種で、川遊びをしていると良く見かける種の一つ。砂底の小動物などを食べており、危機を感じると砂に潜る。自身で美味という人が多い。</p> <p><b>【県内分布】</b>河川源流域を除いて広く分布する。</p> <p><b>【市内分布】</b>市内の河川に広く分布する。(記録メッシュ数137)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ツチフキ</b> <i>Abbottina rivularis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I B類 岐阜県RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>全長8cm程度。類似種のカマツカやゼゼラよりも頭部や背鰭が大きく、ずんぐりした体形をしている。流れの緩やかな泥底を好み、川底の小動物などを食べる。雄親が川底に巣をつくり、卵を保護する。自然分布は濃尾平野以西と考えられているが、濃尾平野は外来個体群の可能性もある。</p> <p><b>【県内分布】</b>長良川水系の支流および揖斐川、木曽川のわんど。</p> <p><b>【市内分布】</b>伊自良川水系の一部でのみ確認されている。(記録メッシュ数7)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ニゴイ</b> <i>Hemibarbus barbus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長50cm程度。口は下向きで吻部が尖り、口ひげがある大型のコイ科魚類。繁殖期は春で、長良川中流域の瀬の周辺に群れ集まって産卵する様子が見られる。幼魚は支流に広く分布する。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方中山間地から平野部の河川。</p> <p><b>【市内分布】</b>河川や水路に広く分布する。(記録メッシュ数123)</p>		 <p>撮影: 鈴木彰</p>
<p><b>イトモロコ</b> <i>Squalidus gracilis gracilis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長8cm程度。口ひげが明瞭。体側中央部に比較的明瞭な黒色縦条がある。国内では濃尾平野～九州に分布。河川の中流域や支流に生息し、やや流れのある砂泥底を好む。コウライモロコに類似するが、より小規模な河川、もしくはより上流側に生息する。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の河川中流域、支流。長良川本流の場合は関市より上流に多い。</p> <p><b>【市内分布】</b>主に長良川の支流に分布する。(記録メッシュ数50)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>デメモロコ</b> <i>Squalidus japonicus japonicus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 II類 岐阜県RL: 絶滅危惧 I類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。コウライモロコやイトモロコに類似するが、口ひげが短く、頬部が広く、頭部背面がやや盛り上がった体形をしている。野外で採集した直後の体色は銀色が強く、体側には青緑の縦条が目立つ。濃尾平野および琵琶湖淀川水系にのみ分布する。流れの緩やかな泥底の水路に生息するが、生活排水などで汚染された環境にはいない。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の一部の水田地帯の水路などに限られる。</p> <p><b>【市内分布】</b>かつて湿地だった一部地域の水路にのみ分布する。(記録メッシュ数9)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>



表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (7/13)

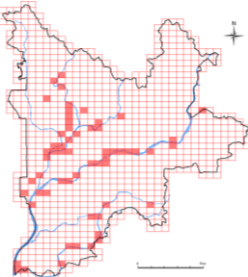

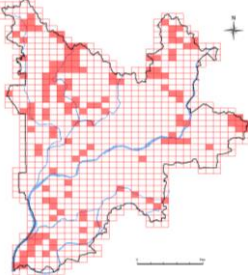

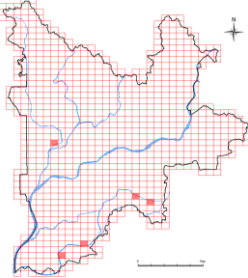

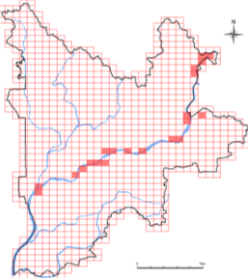

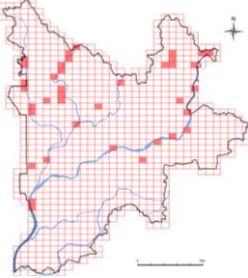

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>コウライモロコ</b> <i>Squalidus chankaensis tsuchige</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) コイ科 (Cyprinidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。眼が大きく、口ひげが長い。体色は明るい褐色で体側中央に小黒点列が並ぶ。名前は「コウライ」だが在来種であり、国内では濃尾平野から瀬戸内海周辺地域に分布。琵琶湖に適応した亜種をスゴモロコとして区別するが、形態的な同定は難しい。河川の中・下流域や支流に生息し、やや流れのある砂泥底を好む。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の河川中・下流域、支流。 <b>【市内分布】</b>長良川および比較的大きな支流に分布する。(記録メッシュ数59)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ドジョウ</b> <i>Misgurnus anguillicaudatus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) ドジョウ科 (Cobitidae)</p> <p>環境省RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。体色は褐色でさまざまな形状の暗色斑がある。尾鰭付根の上部に小黒点があることが多い。水田地帯を代表する魚種だが、近年は全国的に減少している。また、「ドジョウ」とされてきた中には複数種が含まれているが、食用の養殖や流通が広く行われてきたため、国外産や他地域産の個体の放流によって分布が攪乱されている。 <b>【県内分布】</b>河川や水田周辺の水路に広く分布する。 <b>【市内分布】</b>主に水田地帯の河川や水路に分布する。(記録メッシュ数143)</p>		 <p>撮影: 鈴木彰</p>
<p><b>カラドジョウ</b> <i>Misgurnus dabryanus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) ドジョウ科 (Cobitidae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。ドジョウに類似するが、口ひげが長く、尾柄高が高い。中国大陸・朝鮮半島原産の外来種で、日本国内では古くから記録があるが、特に近年著しく分布が広がっている。岐阜県内では2011年に岐阜市と羽島市で分布が確認された。環境省の要注意外来生物に指定されている。愛知県では条例で野外への放流が禁止されている。 <b>【県内分布】</b>岐阜市と羽島市の一部。 <b>【市内分布】</b>新荒田川・境川流域と板屋川で確認されている。(記録メッシュ数5)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>アジメドジョウ</b> <i>Niwaella delicata</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) ドジョウ科 (Cobitidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I B類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長8cm程度。河川上・中流域に生息する藻類食のドジョウで、口の形態が石に付着した藻類を食べるために特化しており、口唇が厚い。黄色を帯びた体色で黒色の縦条がある。冬季は伏流水の湧く場所に潜り込んで越冬するとされており、産卵期は冬とも春ともされている。日本固有種で、岐阜県を中心とした中部地方～近畿地方にのみ分布する。 <b>【県内分布】</b>主に山間地の河川上・中流域に広く分布する。 <b>【市内分布】</b>武儀川と長良川に分布する。(記録メッシュ数21)</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>
<p><b>ニシシマドジョウ</b> <i>Cobitis</i> sp. BIWAE type B</p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) ドジョウ科 (Cobitidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。体側に黒色の点列があり、トウカイコガタスジシマドジョウに類似するが、背面の暗色斑が規則的に配列し、体側中央部が青みがかること、尾鰭の模様などで区別できる。やや流れのある砂底の河川に生息し、河川本流の中流域や支流の場合にはトウカイコガタスジシマドジョウよりもやや上流で見られる。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の河川中流域。 <b>【市内分布】</b>長良川本流および比較的大きな支流に分布。(記録メッシュ数38)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>

表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (8/13)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>トウカイコガタスジシマドジョウ</b> <i>Cobitis minamorii tokaiensis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) ドジョウ科 (Cobitidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I B類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長6cm程度。水田地帯の水のきれいな砂泥底の水路に多く見られるコガタスジシマドジョウの東海地方固有亜種。体側に黒色縦条もしくは点列があり、ニシシマドジョウに類似するが、背面の暗色斑が(特に後半で)やや不規則になることや尾鰭の模様で区別できる。愛知県や三重県では生息地や個体数が少ないが、岐阜県は水に恵まれているためか生息地が多い。 <b>【県内分布】</b>美濃地方平野部の水田水路、小河川、大河川のわんど。 <b>【市内分布】</b>流れが比較的緩やかな水田地帯の水路およびその下流の河川に分布。(記録メッシュ数53)</p>		 <p>撮影: 古田莉奈</p>
<p><b>ホトケドジョウ</b> <i>Lefua echigonia</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) コイ目 (CYPRINIFORMES) ドジョウ科 (Cobitidae)</p> <p>岐阜市条例: 貴重野生動植物 環境省RL: 絶滅危惧 I B類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長5cm程度。ドジョウやシマドジョウ類とは違って鼻孔の近くに1対のひげがあり、ずんぐりした体形をしている。体色は褐色で細かな暗色小点が散在する。ほかの魚類が生息しないような丘陵地の小河川や細流に生息する。岐阜市指定の貴重野生動植物種。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の中山間地の小河川、水路。 <b>【市内分布】</b>北西部の丘陵地に分布地が点在する。(記録メッシュ数43)</p>		 <p>撮影: 寺町茂</p>
<p><b>ギギ</b> <i>Tachysurus nudiceps</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) ナマズ目 (SILURIFORMES) ギギ科 (Bagridae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長20cm程度。自然分布は琵琶湖水系以西で、岐阜県では外来種。鱗が無く、ひげが4対、脂鰭がある。河川の中・下流域や湖沼に生息する。 <b>【県内分布】</b>飛騨地方のダム湖、木曾川・長良川の中・下流域に分布する。 <b>【市内分布】</b>長良川および境川で確認された。(記録メッシュ数8)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ナマズ</b> <i>Silurus asotus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) ナマズ目 (SILURIFORMES) ナマズ科 (Siluridae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長50cm程度。現在は北海道～九州まで分布するが、自然分布域は不明。鱗が無く、ひげが2対。口は大きく、下顎が上顎よりも前に出ている。眼は小さく、背鰭も小さい。河川の中・下流域や湖沼に生息し、初夏には水田周辺の水路にも遡上して産卵する。雄より雌の方が大型になる。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の河川中・下流域、水田地帯に分布する。 <b>【市内分布】</b>河川の本流、支流に広く分布する。(記録メッシュ数80)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>アカザ</b> <i>Liobagrus reini</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) ナマズ目 (SILURIFORMES) アカザ科 (Amblycipitidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 II類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。全身が赤褐色で、ひげが4対ある。秋田県以南の本州、四国、九州に分布し、主に河川の上流から中流域に生息する。胸鰭と背鰭の棘が鋭く、刺されると強く痛む。5～6月頃に石の下でゼリー質に包まれた黄色い卵を産む。 <b>【県内分布】</b>河川の上・中流域に広く分布する。 <b>【市内分布】</b>主に長良川および丘陵地の支流に分布。(記録メッシュ数15)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>

表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (9/13)


種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>アユ</b> <i>Plecoglossus altivelis altivelis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) サケ目 (SALMONIFORMES) アユ科 (Plecoglossidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長20cm程度。北海道～九州まで広く分布する。口には付着藻類を食べるための細かい歯があり、体側前方に黄色い斑紋がある。春～夏は河川上・中流域で主に付着藻類を食べて成長し、秋に中流域下部まで降下して産卵する。孵化した仔魚は沿岸域まで下り、冬季にプランクトンを食べて成長した後に河川に遡上する。ダムなどによって海から遡上できない地域でも盛んに放流がおこなわれている。</p> <p><b>【県内分布】</b>夏季は放流によって県内全域の河川上・中流域に分布する。</p> <p><b>【市内分布】</b>主に長良川に分布し、支流でも確認された。(記録メッシュ数40)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>アマゴ(サツキマス)</b> <i>Oncorhynchus masou ishikawae</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) サケ目 (SALMONIFORMES) サケ科 (Salmonidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長30cm程度。神奈川県以西の太平洋岸を四国までと、瀬戸内海周辺地域に分布する。体に朱点が散在し、幼魚および河川に留まる個体(アマゴ)はパーマークと呼ばれる暗色の小判型の斑紋が体側に並ぶ。降海してから河川に遡上する個体(サツキマス)は全身が銀色で、繁殖期(秋)になると婚姻色に変化する。</p> <p><b>【県内分布】</b>主に河川の上・中流域。(日本海側にも放流によって分布)</p> <p><b>【市内分布】</b>主に長良川に分布。長良川で確認される個体は遡上もしくは降下の途中のものであり、支流での採集事例は放流による一時的なものと考えられる。(記録メッシュ数3)</p>		 <p>撮影: 二村凌</p>
<p><b>ハリヨ</b> <i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp. 2</p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) トゲウオ目 (GASTEROSTEIFORMES) トゲウオ科 (Gasterosteidae)</p> <p>岐阜県条例: 指定希少野生生物 環境省RL: 絶滅危惧 I A類 岐阜県RL: 絶滅危惧 I 類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長5cm程度。背鰭の3本の棘には鱗膜が発達しない。鱗は無く、体前部に鱗板がある。岐阜県と滋賀県の、主に湧水の流れる河川に生息するが、両県のハリヨは遺伝的にも形態的にも異なっている。岐阜県希少野生生物保護条例の指定種であり、捕獲や飼育は禁じられている。</p> <p><b>【県内分布】</b>岐阜・西濃地方の、主に湧水のある河川に分布する。</p> <p><b>【市内分布】</b>北部の一部の河川に分布する。寺社の池と市街地の河川にも記録があるが、それらは人為的な放流によるものと考えられる。(記録メッシュ数6)</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>ボラ</b> <i>Mugil cephalus cephalus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) ボラ目 (BELONIFORMES) ボラ科 (Mugilidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>岐阜市内で確認されるのは全長20cm程度。成長すると50cm程度になる。日本列島の沿岸から河川に広く分布する。一般的に海水魚と思われがちだが、夏季には河川に遡上する個体も多く、輪中地帯の水路や岐阜市南部の河川でも見られる。群れで遊泳しながら泥底の有機物などを食べる。成魚や幼魚は沿岸や汽水域にいるものと思われる。</p> <p><b>【県内分布】</b>木曾三川の下流域に分布する。</p> <p><b>【市内分布】</b>長良川本流、荒田川、境川で確認された。(記録メッシュ数3)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>カダヤシ</b> <i>Gambusia affinis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) カダヤシ目 (CYPRINODONTIFORMES) カダヤシ科 (Poeciliidae)</p> <p>外来生物法: 特定外来生物</p>	<p><b>【種概要】</b>雄は全長3cm程度、雌は4cm程度で、雌の方が大きい。北米原産の外来種で、ミナメダカに似るが雄の臀鰭は交尾器として変形しており、雌の臀鰭も小さい。また、尾鰭が丸い形状をしている。外来生物法における特定外来生物であり、飼育、販売、輸送、放流は禁止されている。ミナメダカと同所的に生息する場所では、ミナメダカを攻撃して尾鰭を食いちぎることが知られている。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方に広く分布する。</p> <p><b>【市内分布】</b>岐阜大学周辺と荒田川、新荒田川に多く分布する。(記録メッシュ数72)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>



表 9-2 生息記録のある魚類の概要等(10/13)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>ミナミメダカ</b> <i>Oryzias latipes</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) ダツ目 (BELONIFORMES) メダカ科 (Adrianichthidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長3cm程度。背鰭が体の後方に位置し、臀鰭が幅広く、尾鰭が角ばった形状をしている。日本固有種で、太平洋側は岩手県以南、日本海側は鳥取県以西で沖縄まで分布する。かつて日本で「メダカ」とされていた種は、現在はミナミメダカとキタメダカの2種に分けられており、岐阜県に分布するのはミナミメダカ。岐阜市内ではオイカワやカワヨシノボリに次いで多数の地点で採集されており、個体数も多い普通種。 <b>【県内分布】</b>美濃地方に広く分布する。 <b>【市内分布】</b>広範囲に分布。(記録メッシュ数224)</p>		 <p>撮影: 坂井英里</p>
<p><b>スズキ</b> <i>Lateolabrax japonicus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) スズキ科 (Lateolabracidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>岐阜市内で確認されるのは全長20cm程度。成長すると90cm程度になる。吻は長く、顔は尖っており、口が大きい。背鰭が第一背鰭と第二背鰭に分かれている。体色はほぼ銀灰色。成魚は内湾や沿岸に生息し、幼魚や若魚が河川によく進入して抽水植物帯でエビや小魚を捕食する。岐阜市内でも、かつては鮎漁の網に毎夜かかる程いとされる。河口堰運用以前は墨俣まで多数遡上していたとされるが、現在では稀。 <b>【県内分布】</b>木曾三川の下流域に分布する。 <b>【市内分布】</b>長良川本流で1例のみ確認。(記録メッシュ数1)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ブルーギル</b> <i>Lepomis macrochirus macrochirus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) サンフィッシュ科 (Centrarchidae)</p> <p>外来生物法: 特定外来生物</p>	<p><b>【種概要】</b>全長20cm程度。北米原産の外来種。外来生物法における特定外来生物であり、飼育、販売、輸送、放流は禁止されている。体高が高く、背鰭前半の棘が発達する。幼魚は体側の横帯が目立つが、成魚は横帯が目立たなくなり、喉部がオレンジ色になる。湖沼、ため池などの止水域を好み、著しく増加することで在来生態系に大きな影響を与える。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の平野部、飛騨地方のダム湖や高山市周辺に分布する。 <b>【市内分布】</b>市内のため池に分布し、河川では幼魚が各地で採集されている。(記録メッシュ数44)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>オオクチバス</b> <i>Micropterus salmoides</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) サンフィッシュ科 (Centrarchidae)</p> <p>外来生物法: 特定外来生物</p>	<p><b>【種概要】</b>全長40cm程度。北米原産の外来種。外来生物法における特定外来生物であり、飼育、販売、輸送、放流は禁止されている。口が大きく、背鰭が第一背鰭と第二背鰭に分かれている。体側に不定型な黒色斑が並ぶ。湖沼、ため池などの止水域を好み、小型魚類、甲殻類、水生昆虫などを捕食し、在来生態系に大きな影響を与える。河川では、わんどなどの流れの無い場所に集まる。釣り目的の違法放流が横行している。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の平野部、飛騨地方のダム湖や高山市周辺に分布する。 <b>【市内分布】</b>市内のため池に分布し、長良川のわんど、支流河川の排水機場周辺にも多い。(記録メッシュ数36)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>カマキリ</b> <i>Cottus kazika</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) カシカ科 (Cottidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長20cm程度。頭部が大きく、総蓋の棘が鉤状に発達する。鱗は無い。魚食性で、冬になると沿岸まで下って産卵する。生まれた仔魚は沿岸で生育した後、春になると河川に遡上する。長良川河口堰運用前の1992年8月に建設省(当時)がおこなった調査では岐阜市から美濃市の範囲で100尾近く採集されているが、現在では極めて少ない。 <b>【県内分布】</b>木曾三川の中・下流域に分布する。 <b>【市内分布】</b>長良川で2例のみ。(記録メッシュ数2)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>

表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (11/13)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>カジカ小卵型</b> <i>Cottus reinii</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) カジカ科 (Cottidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧 I B類 岐阜県RL: 絶滅危惧 II類</p>	<p><b>【種概要】</b>全長15cm程度。アユカケよりも頭部が小さく、鰓蓋の棘は小さい。鱗は無い。冬に河川で産卵し、生まれた仔魚は沿岸まで流下して生育した後、春になると河川に遡上する。生まれた子供が海に下らず河川上流域で一生を過ごすカジカ大卵型とは胸鰭条数で区別できる。現在の長良川では個体数が少ないものの、良さそうな環境を探せば見つかる程度には生息している。 <b>【県内分布】</b>木曾三川の中・下流域に分布する。 <b>【市内分布】</b>長良川本流に分布する。(記録メッシュ数7)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ドンコ</b> <i>Odontobutis obscura</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) ドンコ科 (Odontobutidae)</p> <p>岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。口が大きく、腹鰭は二つに分かれている。体色は褐色で体側に黒色斑が並ぶ。太平洋岸では愛知県以西に分布し、やや小規模で水のきれいな砂礫質の抽水植物が茂った河川に生息する。エビや小魚などを捕食する。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の平野部から中山間地の河川に分布する。 <b>【市内分布】</b>主に市域北部の小規模河川に分布する。(記録メッシュ数42)</p>		 <p>撮影: 梅村啓太郎</p>
<p><b>ヌマチチブ</b> <i>Tridentiger brevispinis</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) ハゼ科 (Gobiidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。褐色から黒色のハゼで、頬に青白い斑点がある。雄は第一背鰭の棘が伸長する。国内では北海道～九州まで分布。川底の付着藻類や小動物を食べる。内湾の汽水域から河川中流域まで生息し、かつては山間部の湖沼などにはいなかったが、1980年代以降に人為的に分布拡大。琵琶湖にも人為的に持ち込まれたものが増加し、アユの放流に混じってさらに各地のダム湖などに広がっている。 <b>【県内分布】</b>木曾三川の中・下流域と一部の支流。ダム湖は琵琶湖からの二次的移入。 <b>【市内分布】</b>長良川本流と武儀川に分布する。(記録メッシュ数37)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>カワヨシノボリ</b> <i>Rhinogobius flumineus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) ハゼ科 (Gobiidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長5cm程度。腹鰭は吸盤状。色斑の変異は多様で個体差が大きい。ほかのヨシノボリ類に比べて胸鰭条数が少なく、カワゲラウォッチングなどで採集された個体も胸鰭が分かるように撮影すれば、胸鰭下部の軟条の間隔が広いことで類似種から区別できる。体のサイズに比べて大型の卵を産み、孵化した子供は河川で一を送る。岐阜県での地方名は「ちちこ」と呼ばれることが多い。きれいな川で採ったものは美味。 <b>【県内分布】</b>県内の河川に広く分布する。 <b>【市内分布】</b>河川、水路に広く分布する。(記録メッシュ数234)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>シマヨシノボリ</b> <i>Rhinogobius nagoyae</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) ハゼ科 (Gobiidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長7cm程度。腹鰭は吸盤状。体側に暗色横帯があり、頬部に朱色のミズ状の斑紋がある。繁殖期の雌の腹部は鮮やかなコバルトブルー色を呈する。本州～琉球列島に分布する。 <b>【県内分布】</b>木曾三川の中流域に分布する。 <b>【市内分布】</b>長良川本流および武儀川に分布する。(記録メッシュ数28)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>



表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (12/13)

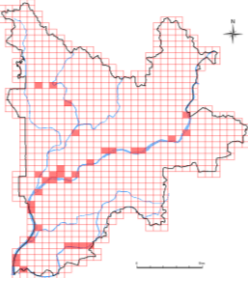

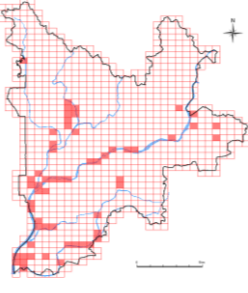

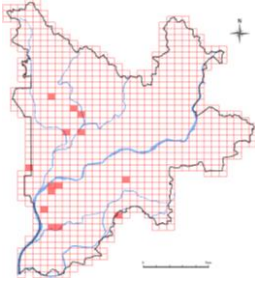

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>ゴクラクハゼ</b> <i>Rhinogobius giurinus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) ハゼ科 (Gobiidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。腹鰭は吸盤状。体色は白っぽく、砂地に隠れやすい模様をしている。体側に黒色斑が並び、小さな輝青点が散在する。西南日本の河川の汽水域から中・下流域に生息する。 <b>【県内分布】</b>木曾三川の中・下流域と周辺の支流に分布する。 <b>【市内分布】</b>長良川本流に多い。支流での個体数は少ない。(記録メッシュ数32)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>トウカイヨシノボリ</b> <i>Rhinogobius</i> sp. TO</p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) ハゼ科 (Gobiidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長5cm程度。岐阜県、愛知県、三重県の3県にのみ生息する固有種。第一背鰭が伸長せず、体に鞍状もしくは不定形の暗色斑がある。現在の環境省と岐阜県のレッドリストでは準絶滅危惧とされているが、実際はかなり危機的な状況。減少要因は圃場整備による湿地の消失、それによって孤立した生息地へのブラックバスの放流、水路のコンクリート化、池の改修による水抜き、国内の他地域から持ち込まれたヨシノボリ類との交雑。 <b>【県内分布】</b>美濃地方の丘陵地のため池、水枯れしない水田地帯の水路。 <b>【市内分布】</b>岐阜市西北部のため池にのみ分布する。(記録メッシュ数9)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>トウヨシノボリ</b> <i>Rhinogobius kurodai</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) ハゼ科 (Gobiidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長5cm程度。腹鰭は吸盤状。色斑の変異は多様で、カワヨシノボリに類似しているが、胸鰭の条数が多く、体側に暗青色のやや四角い斑紋が規則的に並ぶことなどで区別できる。「トウヨシノボリ」とされてきた中には複数種が含まれるとされ、近年も関東産などが分けられつつあるが、岐阜県産の分類学的検討が行われていないため、ここでは旧来の和名を用いておく。 <b>【県内分布】</b>木曾三川の中・下流域と周辺の支流に分布する。琵琶湖からの移入個体群がダム湖に分布する。 <b>【市内分布】</b>長良川本流および流れの緩やかな支流に分布する。(記録メッシュ数58)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>シマヒレヨシノボリ</b> <i>Rhinogobius</i> sp. BF</p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) ハゼ科 (Gobiidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>全長4cm程度。瀬戸内海周辺が自然分布域で、東海地方はコイやヘラブナの放流に混入した国内外来魚の可能性が高い。腹鰭は吸盤状。尾鰭中央部に赤色の縞模様があり、雄の尾鰭下部には赤色斑が現れる。第一背鰭は伸長しない。主に止水域に生息する。岐阜市で採集された個体は、mtDNAの解析ではシマヒレヨシノボリと同定されるが、色斑の特徴からトウカイヨシノボリやトウヨシノボリと交雑している可能性が高い。 <b>【県内分布】</b>不明。 <b>【市内分布】</b>岐阜市東部のため池にのみ分布する。(記録メッシュ数5)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>
<p><b>ウキゴリ</b> <i>Gymnogobius urotaenia</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) ハゼ科 (Gobiidae)</p>	<p><b>【種概要】</b>全長10cm程度。口が大きく、腹鰭は吸盤状。頭部は扁平。体色は褐色で体側に黒色斑が並ぶ。成魚は河川に生息するが、孵化仔魚は海に下り、幼魚が河川に遡上する。ため池やダム湖では陸封も可能。流れの緩やかな場所で中層に浮いていることが多い。 <b>【県内分布】</b>美濃地方平野部の河川に分布する。 <b>【市内分布】</b>長良川と周辺の支流に分布する。(記録メッシュ数29)</p>		 <p>撮影: 向井貴彦</p>



表 9-2 生息記録のある魚類の概要等 (13/13)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>カムルチー</b> <i>Channa argus</i></p> <p>脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 硬骨魚綱 (OSTEICHTHYES) スズキ目 (PERCIFORMES) タイワンドシウ科 (Channidae)</p> <p>外来生物(環境省指定): 要注意外来生物</p>	<p><b>【種概要】</b>全長80cm程度。朝鮮半島原産の外来魚。1920年代に食用のため日本に持ち込まれたのが最初とされており、現在は北海道～九州まで定着。頭部に黒色の縦条が入り、体側には丸い黒色斑が連なる。空気呼吸を行い、流れの緩やかな河川や池沼に生息する。環境省の要注意外来生物に指定されている。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃地方の平野部。 <b>【市内分布】</b>流れの緩やかな小河川に分布する。(記録メッシュ数14)</p>		 <p>撮影: 吉村卓也</p>

### 9-3 重要な魚類

岐阜市で確認されている重要な魚類<sup>27</sup>は表 9-3 のとおり 12 科 29 種であった。ただし、環境省版レッドリストに掲載されているゲンゴロウブナとハスは、岐阜市では外来種のため重要な魚類に含めなかった。また、環境省版レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類とされるミナミメダカは、前述の通り岐阜市では普通種である。現在の良好な生息環境を保つのが重要なのは当然だが、実際の生息状況を考慮せずに「絶滅危惧種」の肩書きだけでメダカが減っていると思いついて、他地域のメダカを放流するような活動が行われると、岐阜在来のメダカが遺伝的に攪乱され、他地域産のメダカと置き換わってしまう。そのような行為は厳に慎むべきであり、地域の自然の実態と保全のあり方について、多くの市民が正しく理解できるようにすることが重要である。

一方、重要種の中で、イチモンジタナゴ、シロヒレタビラ、ヤリタナゴ、アブラボテ、デメモロコ、ハリヨ、ドンコ、トウカイヨシノボリといった種は、岐阜市北部の丘陵地帯周辺に分布が偏っており、一部の種は非常に希少で絶滅のおそれが高いと考えられる。岐阜市北部の今後の開発のされ方によっては、これらの魚種が市内から絶滅する可能性もある。

アマゴ(サツキマス)、カマキリ(アユカケ)、カジカ小卵型、スズキは海と川の間を移動する魚種である。スズキやカマキリは岐阜市内の長良川で多数採集されたことが過去の文献や資料によって知られているが、5年間の調査でスズキは1例、アユカケは投網採集やスノーケリング観察に日数を費やしたにもかかわらず2例しか確認できなかった。

ウシモツゴとカワバタモロコは、極めて危機的状況にある。ウシモツゴの存在が学術的に知られたのは、明治26年に岐阜市で採集されたことに始まるが、もはや市内では私邸の庭池に残るのみであり、野生絶滅と言える。カワバタモロコも岐阜市北東部と南西部で少数個体が採集されただけで(市中央部の記録は人為的な放流)、市内からいつ絶滅してもおかしくない。

<sup>27</sup> 重要な魚類：以下の6文献に記載のある種を対象とした。

- ・「文化財保護法」：「文化財保護法」(法律第214号、昭和25年5月30日)および文化財保護法に関する条例
- ・「種の保存法」：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(法律第76号、平成4年6月5日)
- ・「県条例」：「岐阜県希少野生生物保護条例」(岐阜県条例第22号、平成15年3月)
- ・「市条例」：「岐阜市自然環境の保全に関する条例」(岐阜市条例第20号、平成15年3月)
- ・「環境省RL」：「環境省レッドリスト-汽水・淡水魚類-」(環境省、2013年)
- ・「県RL」：「岐阜県レッドリスト-動物編-」(岐阜県、平成21年3月)

表 9-3 生息記録のある重要な魚類

科名	和名	文化財保護法	種の保存法	県条例	市条例	環境省RL	県RL
ヤツメウナギ科	スナヤツメ北方種					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	スナヤツメ南方種					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
ウナギ科	ニホンウナギ					絶滅危惧ⅠB類	
コイ科	ヤリタナゴ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	アブラボテ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	イチモンジタナゴ					絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅰ類
	シロヒレタヒラ					絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
	カワハタモロコ					絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅰ類
	ヌマムツ						準絶滅危惧
	ウシモツコ			指定希少野生生物		絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅰ類
	カワヒガイ					準絶滅危惧	
	セセラ					絶滅危惧Ⅱ類	
	ツチフキ					絶滅危惧ⅠB類	情報不足
	イトモロコ						準絶滅危惧
	テメモロコ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	トシヨウ					情報不足	
	アシメトシヨウ					絶滅危惧Ⅱ類	
	トシヨウ科	トウカイコガタスジシマトシヨウ					絶滅危惧ⅠB類
ホケトシヨウ					貴重野生動植物種	絶滅危惧ⅠB類	準絶滅危惧
アカサ科	アカサ					絶滅危惧Ⅱ類	
サケ科	アマコ(サツキマス)					準絶滅危惧	準絶滅危惧
トゲウオ科	ハリヨ			指定希少野生生物		絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅰ類
メダカ科	ミナメダカ					絶滅危惧Ⅱ類	
ススキ科	ススキ						準絶滅危惧
カシカ科	カマキリ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	カシカ小卵型					絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧Ⅱ類
ドンコ科	ドンコ						準絶滅危惧
ハゼ科	トウカイヨシノホリ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	シマヒレヨシノホリ					準絶滅危惧	
12科	29種	0種	0種	2種	1種	25種	20種

注)表中の各カテゴリーの内容については、以下のとおりである。

- 県条例 指定希少野生生物：本県における生息状況が、人為の影響によりその存続に支障を来す事情が生じていると判断される種
- 市条例 貴重野生動植物：本市に生息又は生育する野生の動植物(卵、種子等を含む。)のうち、生息又は生育数が著しく少なく、又は著しく減少しつつある種で規則で定めるもの。
- 環境省 RL 絶滅危惧ⅠA類：(CR)、ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。  
 絶滅危惧ⅠB類：(EN)、ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。  
 絶滅危惧Ⅱ類：(VU)、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。  
 準絶滅危惧：(NT)、現時点での絶滅の危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。  
 情報不足：(DD)、評価するだけの情報が不足している種。
- 県 RL 絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。  
 絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。  
 準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。  
 情報不足：県内において、評価するだけの情報が不足している種。

#### 9-4 外来生物法などに係る魚類

市内に生息している魚類のうち外来生物法に係る魚類としては、表9-4のとおり特定外来生物が3種該当する。また、外来生物法の規制対象外であるが、環境省で指定している要注意外来生物として3種が挙げられる。

特定外来生物は、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバスの3種であり、このうちカダヤシは一部の河川や水路に高密度で生息しているが、流れがあり植物の茂った河川や、季節的な水位の変動がある水田周辺にはほとんど生息しない。ブルーギルとオオクチバスはため池に放流されており、これらの魚種が放流された池では在来の小型魚は見られない。河川においても、市内全域で点々と見つかっているが、排水機場のような止水域を除けば、ブルーギルは池から流出したと思われる幼魚が主で、大型の個体がいることは稀である。オオクチバスは長良川のわんど<sup>28</sup>にも多数群れていることがある。それらのオオクチバスがため池から流下したものか、長良川で繁殖しているのか不明だが、わんどは流れの緩やかな環境を好む幼魚の生息場所であるため、オオクチバスが長良川の在来魚種に負の影響を与えている可能性が懸念される。

一方、要注意外来生物は、タイリクバラタナゴ、カラドジョウ、カムルチーの3種が該当し、このうちタイリクバラタナゴとカムルチーは侵入年代も古く、特にタイリクバラタナゴは広く分布して個体数も多いが(記録メッシュ数98)、カムルチーは比較的生息地点が少ない(記録メッシュ数14)。また、カラドジョウは2011年に岐阜市で発見され、確認地点数も限られていることから(記録メッシュ数5)、近年侵入したものと考えられる。

また、外来生物法の対象種ではないが、養殖コイは中国大陸原産の外来種であり、河川への放流によって水草、水生昆虫、貝類などの底生生物を食害して在来生態系に大きな影響を及ぼしている可能性が高い。湖沼においては、コイを放流することで濁度が増して水草が減少することも知られている。コイの放流によるコイヘルペスウイルス(KHV)の蔓延の問題もあるため、野外へのコイの放流は自然環境にとって悪影響があることを周知する必要がある。

そのほかにも、国内外来種として琵琶湖水系原産のゲンゴロウブナ、カネヒラ、ハス、ギギの4種が侵入している。さらに、ツチフキとシマヒレヨシノボリも近畿以西からの移入種の可能性がある。外来生物法の対象種以外も自然環境への影響があるものとして注意する必要がある。

表9-4 生息記録のある外来生物法などに係る魚類

科名	和名	外来生物法
カダヤシ科	カダヤシ	特定外来生物
サンフィッシュ科	ブルーギル	特定外来生物
	オオクチバス	特定外来生物
コイ科	タイリクバラタナゴ	要注意外来生物
ドジョウ科	カラドジョウ	要注意外来生物
タイワンドジョウ科	カムルチー	要注意外来生物

注)表中の各カテゴリーの内容については、以下のとおりである。

外来生物法 特定外来生物：外来生物(海外起源の外来種)であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるも  
 要注意外来生物：特定外来生物被害防止法による規制の対象外であるが、すでに日本に持ち込まれ、生態系に悪い影響を及ぼす恐れのある生物。環境省が指定。

<sup>28</sup> わんど：河川内のうち、自然堤防や河川構造物などによって囲まれ、流れが緩やかで池のようになっている場所や地形。魚類などの水生生物にとって、比較的安定した環境となっている。